

インターバンクの声（2016年4月28日）

日本時間の同日内に大きなイベントが2つ重なるのも珍しいが、まずは最初の米連邦公開市場委員会(FOMC)では追加利上げが見送られた。市場でも今回のFOMCで利上げが決まるとの予想はほとんどなかったが、注目された声明文では世界経済に関連したリスクへの記述が削除された一方、米国景気が減速していることを認識する文言が加わった。次回6月会合で利上げする可能性が示されているのかどうかにも注目が集まったが、否定されることはなかったものの明確に示されることもなく、市場は6月の利上げもないとの見方に傾いているようだ。声明の発表後、ドル円は短い時間で上下に振れたが、上値と下値の値幅が1円にも満たず結局、今週初からの相場水準をそのまま継続させている。久しぶりに112円台に戻すのか110円を割り込む相場に戻ってしまうのか、ドル円の行方は昼過ぎあたりに発表される日銀の追加緩和の有無に委ねられることになった。

提供：SBIリクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。